

SHOW HEY シネマルーム

海燕ホテル・ブルー

2011年・日本映画

配給 / 若松プロダクション、スコール株式会社・84分

2012(平成24)年4月9日鑑賞

テアトル梅田

Data

監督・企画・製作：若松孝二

原作：船戸与一『海燕ホテル・ブルー』

音楽：ジム・オルーク

出演：片山瞳 / 地曳豪 / 井浦新 / 廣

末哲万 / 大西信満 / ウダタ

カキ / 東加奈子 / 岡部尚 /

渋谷清彦 / 真樹めぐみ / 中

沢青六 / 白井咲

👁️👁️ みどころ

『キャタピラー』(10年)でたんまりもうけた(らしい)若松孝二監督が遊び心満載で原点回帰(?)し、「白いドレスの女」を軸に、摩訶不思議な世界を構築!

ハードボイルドタッチの男たちのストーリーはがっちり構成されているが、「魔性の女」の魅力と存在感は?これは現実?それとも幻想?60年代のピンク映画の巨匠が描く「子宮」回帰のイメージとは?

* * * * *

若松孝二監督の「遊び心」が、こんな映画に

1912年生まれの新藤兼人監督が『一枚のハガキ』(11年)(『シネマルーム27』91頁参照)で大活躍なら、1960年代に「ピンク映画の巨匠」「エロスとバイオレンスの異才」と呼ばれて大活躍をした1936年生まれの新藤兼人監督は、相次いで『11・25 自決の日 三島由紀夫と若者たち』(12年)と本作を発表。前者は『実録・連合赤軍 あさま山荘への道程(みち)』(07年)(『シネマルーム18』56頁参照)と『キャタピラー』(10年)(『シネマルーム25』215頁参照)に続く「昭和三部作」の集大成だが、寺島しのぶをベルリン国際映画祭銀熊賞(最優秀女優賞)に押し上げた『キャタピラー』の「もうけ」を使って、遊び心いっぱいにつくると、こんな映画に……。

男たちのストーリー構成はがっちり!他方、この女は?

本作の物語は、刑務所から出所してきたばかりの藤堂幸男(地曳豪)を軸として展開していく。その前提となるのは、7年前の現金輸送車襲撃事件と刑務所の同房内での岸部隆一

(渋川清彦) の死亡だ。出所した幸男は襲撃事件に参加しながら途中で逃げ出してしまった右田浩平 (ウダタカキ) を訪れ、襲撃に参加すらしなかった棚橋洋次 (廣末哲万) の居場所を聞き出し、伊豆大島で海燕ホテルを経営している洋次の元を訪れるが、そこで出会った謎めいた女梨花 (片山瞳) とは？ 500万円を払うから昔のことは忘れてくれという洋次の懇願を幸男は受け入れたが、そこで起きた意外なトラブルの結果、幸男は今海燕ホテルのオーナーに納まることに。そこに登場するサブストーリーの男たちが、地元の警察官 (大西信満) とバーの常連客・裕之 (岡部尚) だが、若松監督は彼らにどんな役割を？

メインストーリーとして次に登場するのが、同房だった富谷正和 (井浦新)、2人の間には房の中で交わした固い約束があったらしいが、今や当初のギラギラした目を失い完全に腑抜け状態になった幸男は・・・？「兄貴をこんな腑抜けにしたのはお前だ！」と正和は梨花に迫ったが、この女は・・・？このように本作は、がっちりとした構成の下で男たちのストーリーがハードボイルドタッチで展開していくが、伊豆大島と海燕ホテルには常に謎の女・梨花が。しかし、この女は一体ナニ？

「白いドレスの女」が最大のポイントだが・・・

本作で梨花を演じる片山瞳は、オーディションで選ばれた元モデル。セリフらしいセリフは男たちが絶滅 (?) した後につぶやく「愚かな人たち！」だけだし、衣裳は白いドレスだけ。演技も、白いドレスを着て日傘を差しながら歩く、タバコを吹かしながら座る、素っ裸で走る、素っ裸でプールを泳ぐ、くらいだから、その中でいかに存在感を示すかがポイント！

「白いドレスの女」といえば、ハリウッドにそのままのタイトルの映画がある (ローレンス・カスタン監督『白いドレスの女』1981年)。また、私のおぼろげな記憶では、マイケル・ダグラス主演の『氷の微笑』(92年) ではシャロン・ストーンが、『危険な情事』(87年) ではグレン・クローズが、いずれも「白いドレスの女」だったのでは？片山瞳は分厚い唇と小生意気そうな雰囲気次第で次々と男たちを魅了する「魔性の女」をうまく演じているし、モデル出身だけにモンロー・ウォークばりの歩き方 (?) もサマになっているが、いかんせん「絶世の美女」とはいえないところがイマイチ・・・。

『一枚のハガキ』で新藤兼人監督は同じような出征シーンを何度も演出したが、若松監督は本作で大島に渡ってきた幸男と正和が「白いドレスの女」に海燕ホテルのありかを尋ねるものの、実はその女は老婆だったというシーンをくり返して演出している。これこそ若松監督の遊び心だが、それに同感できるかどうかはあなた次第。『キャタピラー』でたんまりもうけたのなら、願わくばもう少し人間離れた (?) 絶世の美女を起用してほしかった、というのが私の正直な心境だが・・・。

2012 (平成24) 年4月12日記